

会 議 録

会議の名称	山形市介護人材確保推進協議会		
日 時	令和5年9月28日（木）午後1時30分から午後3時		
場 所	山形市役所10階 1001会議室		
議 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護人材確保に関する調査結果</li> <li>・令和5年度の取組状況</li> <li>・令和6年度の取組（案）、及び、山形市高齢者保健福祉計画 施策の展開（案）</li> </ul>		
出席者	峯田幸悦会長、大島扶美委員、漆山弘幸委員、志田信也委員、片桐菜々子委員、佐藤一委員、山川一枝委員、斎藤幸子委員、高橋俊章委員、松木信委員、荒井晋一委員、菊地一穂委員、今崎絵理委員、川上浩司委員、小林正治委員、高橋裕見子委員、堀川伸一主査（板垣洋子委員代理）、高橋茂弥委員、鈴木利宜委員、鎌水智津子指導主事（米野和徳委員代理）、須賀学指導主事（細谷直樹委員代理）、佐藤雅俊委員 （欠席：丹野克子委員、吉田博人委員）		
傍聴者の数	0人		
審議経過	下記のとおり		
提出資料	資料1	介護人材確保に関する調査結果	
	資料2	令和5年度の取組状況	
	参考資料2-1	KAiGOのおしごとひろばニュースレター	
	参考資料2-2	「介護の職場」魅力・活力くるりんプロジェクトコミュニティ	
	参考資料2-3	外国人向け防災体験	
	資料3	令和6年度の取組（案）	
	参考資料3-1	介護現場の革新に向けた総合的な取組（令和3年度～令和7年度）	
	参考資料3-2	山形市高齢者保健福祉計画（第9期介護保険事業計画）施策展開（案）	
	委員提出資料1	山形市介護保険事業所連絡会代表者会	
	委員提出資料2	訪問看護ステーションやまがた	
	委員提出資料3	学校法人富澤学園 東北文教大学短期大学部 現代福祉学科	
	委員提出資料4	山形労働局 職業安定部 職業安定課	
	委員提出資料5	山形公共職業安定所（ハローワーク山形）	
	委員提出資料6	山形県 健康福祉部 高齢者支援課	
	委員提出資料7	公益財団法人 介護労働安定センター山形支部	
委員提出資料8	社会福祉法人 山形県社会福祉協議会		
当日提出資料	公益社団法人山形市シルバー人材センター		
当日提出資料	学校法人大原学園 山形校		

1 開 会 午後1時30分～

2 あいさつ 峯田会長より挨拶

3 報 告

- (1) 介護人材確保に関する調査結果
- (2) 令和5年度の取組状況

**事務局** (資料1, 2及び参考資料2-1, 2-2, 2-3に従い説明)

**議 長** 『KAiGOのおしごとひろば』は若い人をターゲットに開催したが、参加した委員からご意見を伺いたい。

**委 員** 学生とともに参加し、場所が良かったと感じている。通りすがりの人々が「何をやっているんだろう」とパネルやスクリーンを見ていた。こういった形で地道に働きかけることが重要であると感じており、すぐには学生の獲得に繋がらないと思うが、小さな一歩が大きな一歩に繋がると思っている。

**委 員** すぐに採用に繋がるというよりは、こういった仕事があるということを学生に知ってもらうことが大切だと思っている。また、学生の家族が介護に対して良い印象を持っていない場合があり、介護の辛い面以外を知ってもらうためにも有効であると感じている。

**委 員** 少しずつ小さなことからアピールしていくことが大切だ。コロナの影響で介護体験ができなかったこともあり、小学生や中学生には介護が身近に感じられない子が増えている。介護を知ってもらうきっかけ作りは大切であると感じている。

**委 員** 参加が324名とあるが、どういった基準で数えたのか。通りがかりの人もカウントされているのか。

**事務局** 何も見ずに通行した人はカウントしていない。パネルやスクリーンを見た人のみカウントしている。

**委 員** 当日参加し、映像などを流したが、想像より参加人数が少なかった。業界で働く楽しさ、勉強する楽しさを謳っていく必要があると感じている。今回は霞城セントラル1階だったが、大原学園には介護実習室があるので、そこで大原学園の学生が楽しそうに実習している雰囲気を見せられることを見てもらうことによって、理解を進めることができるのではないかと思う。

**委 員** 広報期間が短く、学生に周知する期間がもう少しあれば良かったのではないかと思っている。介護職員がすごい技術を持っていることを伝えるというイベントの趣旨の一つは、見せきれなかった印象がある。

**議 長** 県と市の教育関係の方からも意見を伺いたい。

委員 イベントの情報を貰うことができれば、各学校にキャリア教育の一つの材料となるような取組として周知することは可能である。

委員 学生の中には介護に興味を持っている子供もいるが、教育課程の中で介護に特化した取組は難しい。そのため、働いている人たちの生き生きとした姿を見る機会があれば、興味を持っている子供が自ら飛び込んでいくようになるのではないかと感じた。

議長 そのほか、ご意見があれば伺いたい。

委員 イベントとは別件になるが、東海大山形高校は全員に初任者研修を受けさせている。学習過程の中に初任者研修があると、将来困ったときにも介護職として働くことができるので、ぜひ検討してほしい。

#### 4. 協議

(1) 令和6年度の取組（案）、及び、山形市高齢者保健福祉計画 施策の展開（案）

事務局 （資料3及び参考資料3-1、3-2に従い説明）

議長 事務局の説明にご意見をいただきたい。

委員 介護ロボットについて、体に装着するものだけではなく寝返り支援ベッドというものもある。職員の負担軽減、また、在宅介護の負担軽減に繋がるのでぜひ活用してほしい。

議長 令和6年度の事業について意見を伺いたい。

委員 訪問介護の人材不足が大変厳しい。入職するときは意欲がある職員も、働いていく中でやめようと思ってしまう現状を変えたいと思う。訪問介護ではカスタマーハラスメントがとても多いと考えられるが、利用時間を短縮して利用者1人に対して介護員2人で訪問するというように解決策はある。何を理由に辞めたのか、何があれば辞めなかったのかという点が重要であると思う。訪問介護はパート職員が多く、何らかの理由で辞めざるをえない人はいる。しかし繋いでおくことで復職に繋がるので、2年か3年ごとの更新研修があれば、知識や技術を身につけることができる。また、勉強したいが時間がないという職員もいるので、離職を防止する方策として研修というものを検討してほしい。長年社会の中で働いてきた人が、必要なときに十分な介護を受ける権利が享受できないということがあってはならないと思っている。

委員 ハラスメントについて、利用者からや職場内からなど、いろいろ種類があると思うが、実態は把握しているか。

事務局 現在は把握していないため、アンケートを計画している。最初に訪問介護事業所、そのあとに

その他の業種の事業所から回答を貰いたいと考えている。ニーズ調査の中にもハラスメントに関する項目はあるが、理由などの細かいところまで踏み込んでいないため、そこまで踏み込むことのできるアンケートを今年度実施したいと考えている。

**委員** 職員も利用者もハラスメントとはどういうものかわからずにいることが多い。実態を踏まえて、ハラスメント講習を企画した方が受講する側も取り入れやすいのではないかと思う。訪問介護では人間関係の難しさがあると思うので、対応を取れる仕組みまでハラスメント事業の中で取り組んでもらいたい。

**委員** 東海大山形高校ではコロナ前から高校生を対象とした作業療法体験見学会というものを毎年秋に行っている。医療機関、介護施設合わせて90から100施設にご協力いただき、160名程度の高校生から参加してもらっている。コロナ禍でオンラインに変更になり、実際に体験できなくなったことにより参加者が減少している。5類になったので、来年あたりからは現場に出向いて行いたい、医療機関に部外者が立ち入ることは難しい。事業自体は継続して行っていきたい。

**委員** 求人・求職のバランスシートを見ると、言語聴覚士の求人倍率は労働局で1.2倍、山形市では1.4倍ということで、昨年度より高くなっていると感じている。認知症の予防には難聴に対策することが重要ということが世間に広まってきた中で、山形市と連携して高齢者の難聴支援を行っているが、その取組に協力する言語聴覚士を確保しなければ、山形市をはじめ、県内全域の認知症予防に言語聴覚士に関わることは難しい。人材不足について即効性のある打開策が見いだせないというのが現状である。

**議長** では、令和6年度の取組（案）、及び、山形市高齢者保健福祉計画 施策の展開（案）に承認いただけるということによろしいか。

－承認－

## 5. 各団体・機関からの情報提供

**議長** 持参いただいた資料等について各委員よりご報告、ご説明をいただきたい。

**委員** （山形市介護保険事業所連絡会代表者会より委員提出資料1に基づいて説明）

アクティブシニアの活動に関するセミナーのチラシをご覧いただきたい。次に、7月10日開催の介護保険部会の資料について、5ページをご覧いただきたい。昨年12月の部会から有料紹介所に関する課題があがっている。もともとは有料紹介所を使わずとも採用できるという論点だったのが、有料紹介所はお金がかかる上に採用した職員が辞めやすいという課題に論点がずれている。今回も、良質ではない有料紹介所を規制していくという方向に話が進み、元の論点からずれてしまっている。ここは修正していきたい。5ページの②では、令和3年度の実績では全職種で6千億弱の市場と出ている。令和5年度版が出たら、1兆円規模になっているのではないかとされている。その中で介護サービスの職業では23,895,519千円である。看護職は

全て看護師の中に入っており、看護師の320億円のうち100億円くらいは介護の事業者が支払っているとされる。そのため約339億円が介護業界で使っている費用となる。③の一人当たりの経費では、42万円と出ているが、推定年収の20～30%が報酬となっているため、年収300万円と考えると60～90万円になるので数字の信頼性が怪しいのではと質問が出たところである。山形市は新しく人材確保推進係もできたので、ハローワークと組むなどして、若い人のニーズに沿ったような求職者募集を自治体主導でできることがあれば進めていただきたい。3つ目の資料は、月に1, 2回介護関係のトピックスをまとめているものなのでご活用いただきたい。19ページは有効求人倍率で、全体では1.3倍であり、介護職員全体では3.79倍で約3倍となっている。訪問介護員に関しては15.53倍である。山形市に限ると数値は変わると思うが参考にさせていただきたい。

**委員** (訪問看護ステーションやまがたより委員提出資料2に基づいて説明)

山形県訪問看護総合支援センターについて、令和4年度は潜在看護師・プラチナナース等の就業及び転職促進を協会のナースセンターで対応し、相談件数93件のうち34件が訪問看護に関心を持っていたという結果だった。訪問看護の担い手創出事業ということで、興味のある人がステーションで実習ができるという事業をしている。1日コースについては37名、2～5日コースについては3名が参加し、その後うち4名が訪問看護事業所に就業している。山形市内の訪問看護事業所を中心に情報交換を行ったところ、オンコールできる人の応募が少ない、SNSを活用したいがやり方がわからない、病院や介護施設併設の訪問看護事業所では病院等での人員確保が優先され訪問に人員が回せない、60歳以上の看護師が柔軟な働き方で活躍している等の意見があった。また、事業所によって偏りがあり、充足しているところもあれば万年不足しているという事業所もあるので、人材確保のための体制整備が必要だろうと思う。

**委員** (学校法人富澤学園 東北文教大学短期大学部 現代福祉学科より委員提出資料3に基づいて説明)

令和5年度の主な取組について、オープンキャンパスは全5回が終了し、うち一回は介護セミナーと同時に開催した。出前授業は今年度5月に高校のみ57校に案内を出したが、現時点で申込みは無い状態である。小学校からは1件依頼があったが、過去に出前授業を行ったことのある学校であった。今年度も川柳の募集をした。83件の応募があり、昨年度は社会人が多かったが、今年度はほとんどが高校生であった。

また、山形市の「KAiGOのおしごとひろば」、山形県の「KAiGO PRiDE部」、介護労働安定センター主催の外国人介護人材確保対策事業の集合研修に協力した。

**委員** (山形労働局 職業安定部 職業安定課より委員提出資料4に基づいて説明)

最近の雇用情勢について、今年7月の有効求人倍率については1.39倍、昨年12月が一番ピークで1.67倍だったが低下傾向にあり、7月が1.39倍となったという状況。だが全国の求人倍率を上回っており、依然として高水準で推移している。新規求人の状況について、7月は8,501人となり、前年同月と比較すると減少しており、5か月連続の減少となっている。産業別でみると、運輸業、宿泊・飲食サービス業が増加しているが、そのほかの産業は減少している状況である。次のページ、新規求職の状況について、7月の新規求職申込件数は3,720

人であり、前年同月と比較すると2か月連続の増加となっている。一方、求人は減少傾向であるため、求人倍率が少しずつではあるが低下傾向になっている。

続いて下の安定所別有効求人倍率の状況をグラフにしたものですが、正社員に係る有効求人倍率も有効求人倍率の低下に伴い、若干低下している状況だ。地域で少し倍率は異なるが、参考にご覧いただきたい。

31ページ、新規高卒者の求人状況について、7月末の時点で新規高卒者に対する求人を5,773人分頂戴している。前年度と比較すると1.5%減少しているが、今年度も県内企業の皆様のご理解により、たくさんの求人を頂いている。産業別にみると、建設業、卸売小売業が昨年度と比較して増加している。一方で、資料にはないが、高卒者の就職希望者数が年々減少している。今年度の高卒者における就職希望者が2,000名を切っている状況。そうした中において、高卒者にかかる求人倍率が4.13倍になり、1人に対して4件の求人があるという状況で過去最高となっている。全業種においては、若年労働者の確保に課題を抱えているという現状になっている。

続いて32ページ、雇用保険の状況。下の方は事業主都合による資格喪失の産業別の推移をグラフ化したもので、参考にご覧いただきたい。

続いて33ページ。人材不足分野、いわゆる医療福祉、建設、警備などの分野の求人求職バランスシートを一覧にしたもの。全体的に人手不足感がさらに強まっている状況である。上段、八段目のあたりに介護関係の欄があり、新規求人倍率で5.66倍、有効求人倍率でも2.84倍となっており、明らかに人手が足りていないという状況が浮き彫りになっている。他の産業においても、建設6.98倍、警備9.76倍と非常に人材不足感が強まっている。

続いて34ページ、例年「福祉のしごと就職フェア」を開催しており、過去3年間の参加者数、就職者数をまとめたもの。厚生労働省が定める介護の日、11月11日の周知を図るとともに、介護福祉事業所における人材の確保、介護福祉分野に就職を希望する求職者への就職支援、就労機会の拡大を目的に、労働局、ハローワーク、本日出席の関係機関と協力して就職面談会を例年開催している。このイベントで例年50数名が就職している。今年度においても、11月に同じように福祉の仕事就職フェアの開催を予定している。近々関係機関にリーフレットが配布されるのでご覧いただきたい。山形会場が11月14日、米沢会場が11月9日、酒田会場が11月22日、鶴岡会場11月10日、新庄会場11月7日と、5会場で開催する。

最後の資料として、介護関係の訓練の実施状況を表にしたもの。最初に、訓練実施施設名の一番上の介護労働安定センター山形支所を山形支部に訂正願いたい。介護の訓練に対する受講者が募集しても集まらなないと苦慮している状況。ハローワークにおいては、求職者に対して積極的に受講勧奨をすすめ、介護分野の人材確保につながるよう引き続き対応していきたいと思う。介護分野における人材の確保、雇用改善の推進を図っていくためには関係機関との連携が不可欠となるため、引き続き事業運営に対してご理解ご協力を賜りたい。

**委員** (ハローワーク山形より委員提出資料5に基づいて説明)

35ページについて人材不足分野バランスシートということで、33ページにも同様のものを載せているが、33ページは労働局で取りまとめた山形県内の状況であり、35ページはハローワーク山形の管内の状況という違いがある。数値は後ほどご覧いただきたい。

36ページは人材確保・就職支援コーナーのご案内のチラシになり、山形所のみ、このコーナー

を設置しており、就職者の方、事業所の方、双方への支援ということで実施している。事業所にご協力いただいていた施設見学会を開催したり、ハローワークでの求人説明会を毎週木曜日に開催したりしている。引き続き関係機関の皆様と協力しながら人材確保対策取り組んでいきたい。

**委員** (山形県高齢者支援課より委員提出資料6に基づいて説明)

資料37ページ、山形県介護職員サポートプログラムを平成26年に作成し、これに基づいて関係機関、団体と連携しながら人材確保に取り組んでいる。

一点修正があり、現状と課題の所の離職率、R3がR4の間違いのため訂正をお願いしたい。

令和4年度は離職率12.7%で、全国と比較すると14.3%で全国よりは良くなっているが、依然として10%を超えているという状況。これに対し県では5つの柱を元に様々な事業を行っている。主に新しい事業で説明すると、介護の理解促進でやまがたKAiGO PRiDE キャンペーンを今年度から新規で行っている。KAiGO PRiDE アンバサダーの養成、出前講座、学生によるSNSでの魅力発信、介護の日のイベントがある。KAiGO PRiDE アンバサダーは出前講座として、各施設や学校に出向いてアンバサダーから介護の魅力を発信するもの。学生によるSNS発信は部活動のような形で高校生、大学生がKAiGO PRiDE 部に所属し、同世代の若者に魅力を発信するもの。介護の日のイベントは11月3日の文化の日に県内4会場をオンラインで繋ぎ、インフルエンサーなどを呼んでイベントをやる予定。チラシが出来次第お知らせするので周知をお願いしたい。また、育成・確保では外国人介護人材支援は引き続き行っているが、3番目の定着・離職防止で外国人介護人材支援センターを今年度から設置して相談窓口や巡回相談、交流会の実施、ニーズ調査を行っている。他にも介護ロボットに関する取組も行っている。

38ページはKAiGO PRiDE アンバサダーについて、次の39ページはアンバサダー養成研修会について掲載している。アンバサダーになるための研修、一日掛かりのものを内陸庄内でそれぞれ開催し、現在25名程度が受講している。文教大のオープンキャンパスでアンバサダーから説明した実績もある。今後、いろいろな学校でやっていきたいと思っている。40ページが学生による情報発信のKAiGO PRiDE 部であり、だいたい20名ほど部員がいる。文教大、山辺高校にも参加いただき、毎月一回部活動をやっている。11月3日のイベントの時に成果発表を学生から行ってもらう予定。41ページは「キッズタウンやまがた」について、去年から山新で開催している子供の体験イベントで、これに介護ブースを設け、200人ほど集まった。42ページは開催風景を広告で載せてもらったもので、大変人気で、募集するとすぐに応募定員に達する人気のイベントになっている。来年度も開催予定である。43ページについては外国人介護支援センターについて概要をまとめたもの。44ページについては外国人支援センターのチラシとなっているので、後程ご覧いただきたい。45ページは昨年、動画作成のスキル動画を若者向けに作成したので、そのチラシを載せている。46ページはKAiGO PRiDE についての説明である。

**委員** (介護労働安定センター山形支部より委員提出資料7に基づいて説明)

県で発行しているパンフレットで、47ページの資料が非常によくまとまっている。外国人の方を採用したいがどうしたらいいか、いきなり採用するのではなく採用を検討したいがどうかという事業所がたくさんある。ここで見てもらいたいのが48、49ページの下、受入れのポイントを見ていただくと、だいたい進め方やどこに聞けばいいかが分かる。このあたりを事業所向けに色々話している。

51ページ、支援センター業務の他に、外国人の確保に関する話をしている。実際にいろいろな先生から話を聞くと同時に、現場の事業所、関係機関、今年に入って100か所ほど、事業所の話聞いて問題点などを整理した上で、月1回、県の担当者に報告に行っている。その内容について吟味してもらい、「これからこういったことをやってみようかな」と使ってもらえれば非常に報告が生きてくると思う。これは続けていく。当然名前は出さず話をさせてもらうので、私たちのような機関をうまく利用して、こういった問題があるんだと、県や市に話してくれないかというものがあれば介護労働安定センターを使ってほしい。

研修について、高校生を対象とした研修をしている。また、介護助手ということで一般の方に来ていただく研修も行っており、人材センターに協力をいただいて事業所との面談の仲介もやっている。その中で話を聞くと、高校生は先ほど言ったように家族が世話になったことで介護を志す人がいるが、一部だとは思いますが、先生や親が積極的ではないという話も聞く。介護助手は介護とつくとも資格があつて難しいと思ってる方が多い。実際はベッドメイクや掃除など、やれることがたくさんある。それをやっていただくと、介護福祉士の資格を持っている人が身体介護に専念でき、施設の介護の質を上げられる。そういった意味でも、60歳の高齢の方で一日何時間とか、月水金の送迎であれば朝夕の二時間だけとかそういった働き方があるということを知っていただき、そういう仕事についていただければと思う。そういった思いで事業を行っている。今後も続けていきたいと思っているので、ご協力をお願いしたい。

**委員** (山形県社会福祉協議会より委員提出資料8に基づいて説明)

資料57ページ、福祉人材センターは県社会福祉協議会が山形県知事より福祉人材センターとして指定を受けて、厚生労働大臣の許可を受け無料職業紹介事業を実施している。福祉サービス従事者の確保、育成、離職防止、県内定着を図っている。人材確保に向けては福祉人材センターでの相談、出張相談会として県内すべてのハローワークやマザーズジョブサポートで毎月出張相談を行っている。そのほか介護の仕事への就職、再就職を促す講座を実施している。53、54ページがそのチラシである。パート1の内陸・庄内は終わったが、パート2が12月20日と1月19日に実施する。求職者から「予備知識なく復職するのは不安がある」「最近の介護の状況など知りたい」「いきなり面談ではなく、その前に情報を知りたい」という声を頂き、開催をしている。募集中なので、電話での申込、またはQRコードからの申込について声がけ等お願いしたい。

55、56ページは職場体験事業の申込書となっており、3番・施設見学会、4番・職場体験となっているが、ハローワーク山形管内の施設見学会はハローワーク山形が主催となっているので、共催という形で関わっている。それ以外の県内7カ所は主催として施設見学会を実施している。概ね一時間程度のメニューとなっているが、一時間だけ見てもわからないからぜひ就労現場の体験をしたいという方もいるため、職場体験事業という形で4番を行っている。就労体験を2日間実施している。

それ以外にも返還免除付きの貸付を実施している。「福祉のしごとフェア」は県内4カ所で各地のハローワーク、山形労働局、山形県福祉人材センター、介護労働安定センター山形県支部、山形県ナースセンターで連携して実施している。

58ページ、事業所向けセミナーを開催している。福祉施設・事業所の求人力アップを目的に介護職についてよりポジティブなイメージを持ってもらえるよう学生等に対して「どういったことをどのタイミングで説明すると良いか」という内容のセミナーを実施している。



また、市町村社協と連携し、生活福祉資金関係者で仕事を探している等必要な方に情報が届くよう、生活福祉資金担当者会議に出席して福祉人材センターの事業について説明している。

人材定着に向けては介護職員学習交流会を開催している。また、職場内研修講師派遣を行っている。集合形式の研修になかなか来られない事業所に講師を派遣し、その事業所で研修を受けていただくということをしている。人材研修部では山形県社会福祉研修センターを所管しているが、その他研修センターでの研修としてカウンセリングやメンタルヘルス、ファシリテーション、アングーマネジメント、介護者の負担軽減のための介護技術、職場内コミュニケーション、チームマネジメント、ハラスメントをテーマにしたもの等を実施している。離職理由として職場内でのコミュニケーション不足、人間関係で離職してしまうという実態があり、そういった理由の離職を少しでもなくしたい。その思いからコミュニケーションに関することも職場内研修講師派遣だけでなく、研修センターの研修事業としても行っている。

**委員** (山形市シルバー人材センターより当日提出資料に基づいて説明)

チラシを持参したのでご覧いただきたい。当センターは、60歳以上の男性女性の方で、健康で働く意欲のある方、山形市にお住まいの方を対象に会員制で行っている。介護関係では、介護補助、調理補助、施設などの業務に関わっている会員もいる。一番の課題は会員の高齢化。新規会員が平均では73, 74歳になっており、老々介護になってしまう。身体的な介護は当然資格がないとできないと部分もあるため、補助的などところで調理補助や宿直などの業務をやらせてもらっている施設もある。そういった話で困っていることがあれば当センターに相談、問い合わせをしてほしい。

チラシ裏面、DX化ということでWEB入会を当センターでは6月から始めている。高齢者なのでWEBでの入会をする方は少なく、6月から始めて現時点で3人程度。これも長い目で見ていけば増えてくるだろうと思っている。山形市の1階市民課との国民保険課、2階の福祉の一部で10月からデジタルサイネージということで、受付窓口で企業広告を出していて、シルバー人材センターも15秒広告出してもらう。市民課と子育ての課でもテレビの下にもチラシを置かせてもらっている。市役所に来る際には関心があればチラシを手にとっていただきたい。

商工会議所とも連携し、チラシを置かせてもらっている。また、商工会議所のメンバーが定年退職する際には説明やPRをお願いしている。

定年退職後にフルタイムで福祉施設に勤めるのはきついが、これまでの経験を生かしながら介護関係の仕事をやりたいという方がいれば、一つの方法としてはシルバーの会員になって働くこともできる。会員が不足しているため、いろいろな機会にPRしていただければ、そのように協力していくことができると考えている。

## 6. その他

**委員** (山形県認知症高齢者グループホーム連絡協議会より)

皆様の新しい情報も頭に入れながら、人材確保というところで今いるスタッフを大切にしていきたい。施設に持って帰り、職員と話し合いたいと思う。

**委員** (山形市社会福祉協議会より)

委員の方からの提出資料を持ち帰ってもう一度読み、大いに参考にさせてもらいたい。

**委員** (山形県教育局 高校教育課より)

介護職員初任者研修について、県内の公立高校、私立高校、合わせて5校が取り組んでいる。福祉系の授業を選択している生徒となるため、そこを選択するかどうかは小学校中学校の時に興味を持ったかということ、保護者が理解してくれるかということが大事になってくる。県内で国の認可を受けて介護福祉士養成を行っている高校は、県立山辺高校福祉科と県立鶴岡中央高校総合学科の2校である。学生たちが頑張っていて100%の合格となっている。介護初任者研修は昨年度県内で60名ほどが修了しているかと思う。合格できるというのは皆様の受入やご指導のおかげです。ぜひ今後ともよろしくお願いします。入学志願者の増加に向けた取組は各高校と協力して進めてまいります。

7. 閉 会